

学校関係者評価委員会報告書

開催日時	令和2年3月6日(金) 15:00~17:00
開催場所	本校会議室
出席者	①評価委員3名 絹木副委員長(大学準教授) 谷口委員(栃木県介護福祉士会副会長) 川田委員(オフィスC 高等学校社会福祉科講師) ②本校教員5名
配布資料	①高等教育無償化にかかわる資料の抜粋 ②自己点検表 ③本校教育課程(カリキュラム)・時間割
議題 議事内容	①高等教育無償化にかかわる制度の説明と本校の状況 本校も本年度に高等教育無償化の対象校として機関要件を満たし認定された。しかしながら対象者が在學生、新入生とともに現在いない。 申請者が少ない理由の一つとして、栃木県介護福祉士修学資金の貸与によって、学費の全額が支弁されることが考えられる。今後対象者が出た場合は、速やかに対応したいとの説明がなされた。 絹木委員より、GPA 評価に関して大学の事例を挙げながら評価に関してのアドバイスがなされた。 ②学校自己評価の説明 自己評価に関してはおおむね適正な運営がなされていることが説明された。 ③令和2年度より教育課程を一部変更することの説明 高等学校から入学する学生に加え、職業訓練生や留学生と多種多様な学生が在籍している。国家試験の合格率を高めるためにも、本校独自科目を減少させ、基礎カリキュラムを中心とした教育課程に令和2年度より変更したい。また、介護福祉士資格取得に加えて、介護予防指導士とレクリエーションインストラクターの関連資格は引き続き取得させていく。 委員より、留学生を教育するにあたって、困難なことや対応についての質問がなされた。 教務より、日本語のレベルが低いため授業を理解させるためには工夫が必要であることや、介護にかかわる日本語の授業を留学生対象に実施していることが説明された。 ④新型コロナウイルス感染症に関する対応 栃木県の学校と同様に通学はさせず、自宅で学習をさせている。オンライン授業が望ましいと考えているが、通信環境が整わない学生もいるため、テキストと問題を作成して通信教育としている。

学校運営会議報告書

開催日時	令和2年3月16日（月）14:30～16:00
開催場所	特別養護老人ホーム美渉研修室
出席者	<p>①運営委員4名  千種委員（大学医学部教授）  佐藤委員（弁護士）  石田委員（株式会社 石田事務所）  大屋委員（税理士）</p> <p>②栃木介護福祉士専門学校  大山知子（社会福祉法人蓬愛会理事長 全国老人福祉施設協議会副会長）  縣和尋（栃木介護福祉士専門学校校長）  武藤清子（栃木介護福祉士専門学校教務課長）</p>
配布資料	<p>①高等教育無償化にかかわる資料の抜粋  ②本校教育課程（カリキュラム）・時間割</p>
議題 議事内容	<p>①高等教育無償化にかかわる制度の説明と本校の状況  この制度を学生が利用するには、学校の要件と本人家庭の収入要件が必要となる。本校も本年度に高等教育無償化の対象校として機関要件を満たし認定された。しかしながら申請者が在学生、新入生とともに現在いない状態である。  申請者が少ない理由の一つとして、栃木県介護福祉士修学資金の貸与によって、学費の全額が支弁されることが考えられる。今後対象者が出た場合は、速やかに対応したいとの説明がなされた。</p> <p>②学校の運営（学生募集）と学生状況  本年度は在籍者が50名の状況で、昨年度に比べ学生数が若干減少した。  入学生を確保するため、高等学校、社会人、離職者訓練、留学生に学校説明会を行い、次年度は学生が8名増加する予定である。新しい傾向として、介護分野において、介護福祉士養成校で資格を取得すると、留学生も帰国せず就労できる仕組みとなったことから、留学生の入学が増加している。</p> <p>委員から留学生の状況について質問がなされた。</p> <p>教務課長から、学生数増加は歓迎すべきことではあるが、留学生の教育には言語の壁、学費の壁、生活習慣の壁等があるため、適切なフォローを行っていききたい。  介護における日本語教育が必要なため、介護の職場で働く外国人に日本語教育を行っている教員を非常勤講師として採用した。  また、学費支援のために、留学生に対しては栃木県介護福祉士修学資金の貸与申請において、法人が連帯保証人となる予定であるとの説明がなされた。</p> <p>③令和2年度より教育課程を一部変更することの説明  国家試験の合格率を高めるためにも、本校独自科目を減少させ、基礎カリキュラムを中心とした教育課程に令和2年度より変更していくこと等が説明された。</p>